



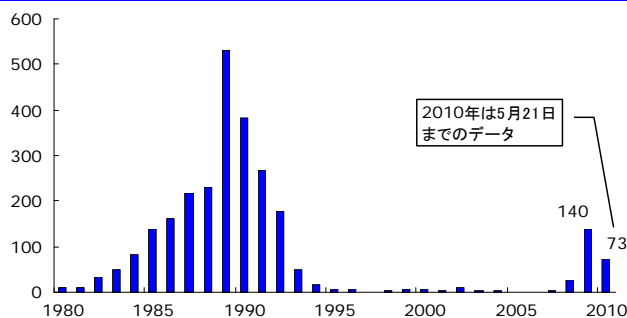
# Economic Monitor

## 景気回復にも関わらず、増え続ける米国の銀行破綻

米国では景気回復にも関わらず、貸出以外の収益基盤に乏しい中小行の経営を、商業用不動産向け貸出の劣化が圧迫し、銀行破綻の増加が続いている。FDICの預金保険などセーフティーネットは整備されているため、金融不安に繋がるリスクは小さいが、金融機関の破綻増加は、金融システムの資金仲介機能を弱体化させるため、今後の成長のボトルネックになる可能性がある。

米国の銀行破綻の増加が止まらない。2010年は5月半ば迄で、既に73行が破綻した。年率換算すると190行に相当し、2009年の140行を大きく上回るペースである。FDIC（Federal Deposit Insurance Corporation、米連邦預金保険公社）が問題行（Problem Institution<sup>1</sup>）として認識する金融機関数も2010年3月末で775と2009年末の702から増加している。

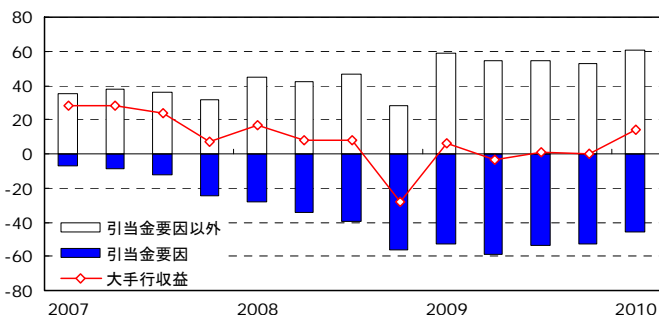
米金融機関数の破綻件数



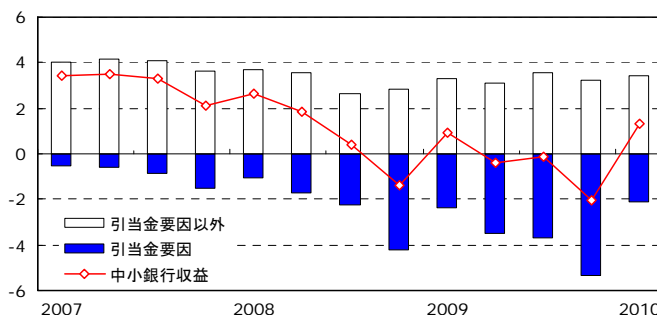
米国経済は2009年7~9月期からプラス成長に転じ、2010年1~3月期も前期比年率3%を上回る成長を確保した。そうした景気回復に加えて、金融市場の機能回復に伴うトレーディング収益の増加もあり、銀行業績も回復に転じている。FDICによると、商業銀行（Commercial Bank）の収益（Net Income）は2010年1~3月期に158億ドル（2009年10~12月期▲19億ドル）と2008年1~3月期の192億ドル以来の高水準を記録した。四半期当たり300億ドル程度を稼いでいた2007年には程遠いものの、収益状況は明確に改善している。

2010年1~3月期の商業銀行の業績を見ると、景気回復に伴い貸倒引当金繰入額が減少した影響が大きい。貸倒引当金繰入額は2009年10~12月期の580億ドルから482億ドルへ98億ドル縮小した。また、トレーディング収益も前期から64億ドル増加し、増益に貢献している。なお、資金利益（金利収入-金利支払、引当金控除前）も92億ドル増加したが、その大部分は会計基準の変更<sup>2</sup>によるものであり、資金

大手行（資産規模10億ドル超）の収益推移（10億ドル）



中小銀行（資産規模10億ドル以下）の収益推移（10億ドル）



(出所)FDIC

(出所)FDIC

<sup>1</sup> FDICは、監督対象の金融機関に対して、財務やオペレーション・経営などの観点から財務継続性について、独自に5段階の格付けを付与している。その格付けで下位の4及び5にレーティングされた金融機関が”Problem Institution”。

<sup>2</sup> FAS166,167。詳細は省略。

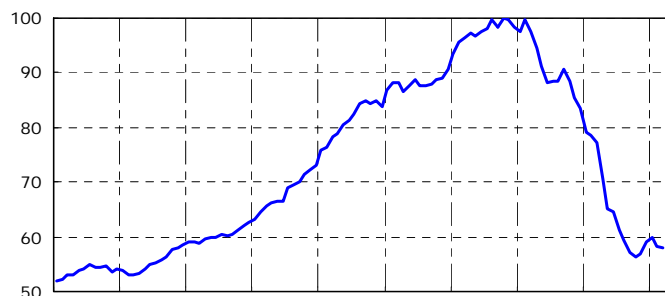
利益が明確な回復に転じたと判断するのは時期尚早であろう。企業、個人共に資金需要は低迷したままである。

業績が改善しているにも関わらず、金融機関の破綻が増加しているのはなぜか。理由は二つある。第一は、業績改善が大手中心であり、中小の改善は限定的なためである。業績要因に挙げた貸倒引当金繰入額の減少は、大手行と中小銀行で変わらない。総資産が10億ドル超の商業銀行（大手行<sup>3</sup>）の貸倒引当金は1～3月期に66億ドル減少、10億ドル未満（以下、中小銀行）も32億ドルの減少である。大手と中小で大きく異なるのは、貸倒引当金以外の要因である。大手行の収益は、トレーディング益を64億ドル積み増すなどして、前期から143億ドル増益の145億ドルとなったが、一方、中小銀行の収益は貸倒引当金繰入額の減少分とほぼ等しい34億ドルの増加に留まっている（引当金以外では、人件費削減などによる費用減少が増益に寄与）。

第二には、よく言われるように、中小銀行は資産に占める商業用不動産向け貸出の比率が高いことが影響している。直近2010年1～3月期について見ると、大手行の商業用不動産向け貸出<sup>4</sup>は総貸出の18.6%に留まるが、中小銀行では42.0%を占める。オフィスや賃貸用住居の空室率は高止まりし、商業用不動産価格は低迷が続いており、それに伴う商業用不動産向け貸出の劣化が止まっていない。FDIC データでは2010年1～3月期の商業用不動産向け貸出の延滞率<sup>5</sup>は前期から0.4%Pt上昇の9.0%に達し、不良債権比率<sup>6</sup>も7.3%まで上昇した。こうした中小銀行の資産に占める比率の高い商業用不動産向け貸出の劣化が、中小行の経営を大きく圧迫していると言えるだろう。

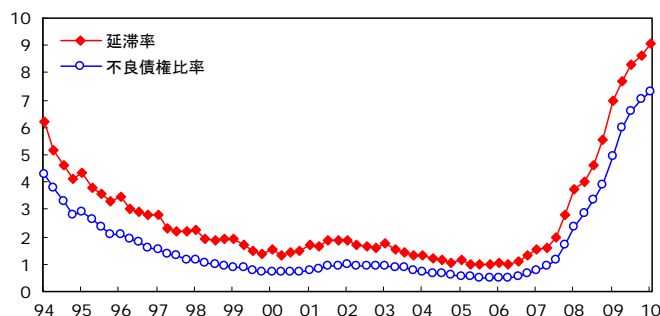
トレーディング収益など、貸出以外に収益基盤の乏しい中小銀行の経営を、商業銀行向け貸出の劣化が直撃し、破綻件数の急増に繋がっている。但し、金融機関の破綻に備えたセーフティーネットは整備されており、中小銀行の破綻増加が、金融不安の再燃に繋がる懸念は現時点で小さい。銀行破綻に備えたFDICの預金保険基金は3月末時点で207億ドルのマイナスだが、実質的にはプラスである。FDICが昨年12月に2012年までの銀行保険料、約450億ドルの前倒し徴収を行っており、それが保険基金に順次計上されるためである（前倒し徴収のため、現金収入はあるものの、即時に全額をバランスシートへ組み入れはできない）。また、問題金融機関の数こそ引き続き増加しているものの、FDICは大規模破綻がピークを越えたと判断しており、事実、破綻に備えた損失引当組入額（Provision for insurance losses）は2009年7

商業用不動産価格指数の推移（ピーク=100）



（出所）Bloomberg

商業用不動産向け貸出の毀損度合い（%）



（出所）FDIC

<sup>3</sup> 一般には、資産規模100億ドル超を大手行と称すると場合が多いが、統計の都合上、10億ドルで区分した。なお、資産規模10～100億ドルの銀行の資産が、全体に占める割合は小さいため、本稿の分析には大きく影響しない。

<sup>4</sup> 建設・土地開発、集合住宅、非農業・非住宅不動産向け貸出の総計。

<sup>5</sup> 30日以上延滞債権、及び、利息計上停止債権の貸出総額に占める比率。

～9月期の217億ドルをピークに、10～12月期は178億ドル、2010年1～3月期は30億ドルまで縮小した。米国経済の回復が続けば、FDICの基金枯渇は回避できると考えられる。

しかし、こうした中小金融機関の破綻が、金融システムの資金仲介機能を損なう点には留意が必要であろう。サブプライム問題に端を発した金融危機が、世界経済を深刻な景気後退へと陥れたのも、金融システムの麻痺が原因であった。現在は資金需要が乏しいため、大きな問題ではないが、景気回復が続き、企業や個人の資金需要が活発化したときに、金融システムの資金仲介機能の弱体化が、米国経済の成長におけるボトルネックとなるリスクは認識しておくべきである。

---

<sup>6</sup> 90日以上延滞債権、及び、利息計上停止債権の貸出総額に占める比率。